

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																											
広島工業大学専門学校		昭和59年1月14日	玉野和保	〒733-8533 広島県広島市西区福島町2-1-1 (電話)082-295-5111																											
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																											
学校法人鶴学園		昭和32年11月27日	鶴衛	〒731-5193 広島県広島市佐伯区三宅2-1-1 (電話)082-921-3121																											
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
工業	工業専門課程	機械工学科	平成17年文部科学省 告示第176号	-																											
学科の目的																															
機械加工に関する知識・技能および品質管理などの生産管理知識を修得させ、製造現場のリーダーとなる人材を育成する。																															
認定年月日																															
平成26年3月31日																															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2	年間	2,048	1,152	0	1,120	0	0																								
生徒総定員																															
生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
80人		52人	4人	4人	6人	10人																									
学期制度	前期:4月1日~9月30日 後期:10月1日~翌年3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・課題・小テストや、授業態度、また出席状況等を総合的に判定し、科目担当教員が評価。																										
長期休み	■学年始:4月5日 ■夏季:7月22日~8月31日 ■冬季:12月23日~翌年1月7日 ■学年末:3月18日~4月3日			卒業・進級条件	卒業条件は、学科の定める卒業認定単位数を満たしていること。進級条件は、出席率80%以上、必須科目の単位の取得を原則とし、学科判定会議、学校全体の認定会議で審議。																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 出席率不良(80%未満)学生について、個別の状況把握に努め早期対応を行う。長期欠席者に対しては学科長、校長等が本人に対して保護者を変えて生活指導・進路指導を行う。			課外活動	■課外活動の種類 学友会、体育祭実行委員会、専門祭実行委員会、地域ボランティア清掃、広島市グリーンパートナー、みちのく未来基金募金活動等。 ■サークル活動: 有																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 広島アルミニウム工業㈱、㈱ハマダ、日立建機日本㈱、今治造船㈱ ■就職指導内容 学生向け就職ガイダンス、生き方講座SPI・面接指導等 ■卒業生数 22 人 ■就職希望者数 20 人 ■就職者数 20 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 91 % ■その他 ・広島工業大学 機械システム工学科 進学 2名 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>技能検定 普通旋盤作業2級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>技能検定 普通旋盤作業3級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>技能検定 数値制御旋盤3級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>技能検定 マシニングセンター3級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>技能検定 フライス盤3級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	技能検定 普通旋盤作業2級	③	3人	2人	技能検定 普通旋盤作業3級	③	20人	16人	技能検定 数値制御旋盤3級	③	2人	1人	技能検定 マシニングセンター3級	③	6人	4人	技能検定 フライス盤3級	③	1人	1人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
技能検定 普通旋盤作業2級	③	3人	2人																												
技能検定 普通旋盤作業3級	③	20人	16人																												
技能検定 数値制御旋盤3級	③	2人	1人																												
技能検定 マシニングセンター3級	③	6人	4人																												
技能検定 フライス盤3級	③	1人	1人																												
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 ■中退率 0 % 平成29年4月1日時点において、在学者52名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者52名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 主にチューターが相談窓口となり、学科長、校長等が本人に対して保護者を変えて進路指導を行い、中退防止に努めている。																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 広島工業大学専門学校同窓会奨学金(給付型・年額6万円) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.hito.ac.jp/">http://www.hito.ac.jp/</a>																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

現場で求められる専門知識・技術・資格および専門性に関する動向等について、企業等と連携してカリキュラム編成や授業内容・方法等の改善を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

企業・業界団体等と連携し、各課程及び学科における技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図ることを目的に、広島工業大学専門学校学則第50条により産学連携協議会を設置し、その中に、教育課程編成委員会を置く。

当該委員会では、以下の事項を審議し、審議結果は教育部長及び各学科長が中心になって教育課程を見直す。

- ①教育課程の編成及び実施
- ②教育計画に関する事項
- ③教材の開発等

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

学校関係者委員

平成30年3月31日現在

名前	役職・所属	職責等
玉野 和保	校長	教育課程編成委員会責任者
鶴 登美子	副校長	委員
吉本 恒雄	教育部長	委員
山下 一彦	キャリアサポートセンター長	委員
竹田 睦	機械工学科長	委員
境 弘之	機械工学科教員	委員
藤本 幹雄	機械工学科教員	委員
若狭 邦男	機械工学科教員	委員

企業関係者委員

平成30年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
内田 和博	広島工業大学工学部知能機械工学科	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	②
山本 博	テンパール工業株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 6月、翌年2月

(開催日時(実績))

第1回 平成29年6月16日 15:00～17:00

第2回 平成30年2月 2日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会等の意見	学科の対応
資格取得は、会社では目標ではないが、各々のモチベーション上に働き成長へ繋がる為、大変良い事である。また、資格取得の途中でモチベーションが下がる事に関しては、メンタル面や振り返りの必要性があるかもしれない。	次年度も多くの資格取得へ繋がるよう、サポートを強化し取り組む事とする。また、各々の適性に応じた資格取得ができるよう、平成30年度より技能検定機械製図(CAD製図)への受験体制を整える事とする。これにより、機械加工分野と設計製図分野の2分野のいずれか若しくは両方を選択し受験できるようになる。
ICT、IoTの製造現場への普及状況及び教育への導入に関しては、最近では、電子黒板のクラウド化などもある。また、会社での一例をあげれば、残業時間の管理などに導入されている。ログオン・オフ入室管理などかなり厳しい。逆に業務に支障が出るほどである。有効に活用する必要がある。	本年より展開した授業においては、非常に有効であったという部分とそうではない部分が混在した。これらを加味した効果的な活用方法を模索し、適正な導入を検討することとする。また、電子黒板を用いることで失われがちな板書の必要性も問われており、今後もICT教育に関する授業展開について検討を行う事とする。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 機械加工を中心とするものづくりの現場における技術・技能を学生に身に付けさせるため、ものづくりへの意識が高く、機械加工技術に優れている企業を選定し、当該企業の技術者を講師とする実践的な授業を展開することとする。また、同時に実習における学習成果等に対して評価を行う体制を学校と連携して取ることが可能な企業であることとしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 授業科目「目玉アサイン」において、地元企業と連携を図り、当該企業より講師を依頼し実践的な授業を展開している。  
 学期初めに「ものづくりの心構え」をテーマに講演を頂くとともに、グループワークのキックオフミーティングを開催。学習の後半では、各グループ毎に成果をプレゼンし、企業の講師に評価頂いている。  
 本年は、企業からの仕事の依頼という形でタイアップも実施しており、学生の学習意欲を啓発し、より実践的な実習を行っている。  
 グループワークによる総合的な課題実習に取り組むことで、生産現場に必要な応用力をはじめ、理論的な実験・検証を通し、問題解決能力へつなげる論理的思考の育成にもつながっている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
自主デザインⅠ	2年前期の開講科目であり、これまでに修得した加工の知識・技能を活かしグループワークで課題解決を行う応用実習である。各グループで製作物を起案し、設計から加工までの一連の流れの体験学習する。後期開講科目の自主デザインⅡを継続受講する。	共立工業株式会社
自主デザインⅡ	2年後期の開講科目であり、自主デザインⅠより継続して受講する必要がある。製作の進捗状況は、定期的（初期・中間・最終）に報告会で発表し、企業講師による評価を受ける。評価に基づき、課題を解決しながら年度末までに完成を目指す。	共立工業株式会社
インターンシップ	企業での就業体験・製造業での仕事体験・仕事の雰囲気、仕事の意味などを実践を通して理解し、就業意識の向上を図る科目。	株式会社岡村鉄工所・有限会社キカワカーサービス・共立工業株式会社・株式会社西井製作所・株式会社フジカワモータース・広島精密工業株式会社・株式会社横田製作所・株式会社ロイヤルコーポレーション株式会社・株式会社ハマダ・広島アルミニウム工業株式会社・株式会社ショウエイ・株式会社アビスト・株式会社マイスターエンジニアリング・トップ金属工業株式会社・広機工株式会社・第一設計株式会社・株式会社タステム・理研産業株式会社（18社）

## 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員が、当学科における急速に変化する経済社会のイノベーションに対応できるよう、専門的な知識や技術・技能を高め、また、学生に対する指導力等の向上を図るため、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会での審議を通じて示された意見や情報等を十分に把握した上で以下の研修等を計画・実施し、それに参加することで教育活動の充実に努めることを基本方針とする。教員の資質・指導力向上等については、「広島工業大学専門学校教員研修に関する内規」に基づき、専門能力向上および指導力向上を図るための研修を行うこととしている。

- ① 企業が開催する研修会
- ② 協会主催学術講演会・講習会・研修会
- ③ 業界団体主催の研修会

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

対象	研修名称	主催	研修期間	研修内容
学科長	次世代の教育インフラ紹介セミナー IT教育最前線2017広島	三谷商事株式会社	平成29年8月10日	【研修目的・概要】 教育業界及び企業におけるIoT、ICT化に伴う最新情報を学ぶ。 【講師】 「社会と産学の協働による教育研究基盤セッション」 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 室長 中村素典 「GoogleClassRoomで学習管理」相模原高等学校 教諭 笹原健司 【対象科目】 全科目
教員	三菱電機トレーニングスクール 基礎：シーケンサ プログラミング	三菱電機株式会社 中国支社	平成29年8月30日～31日	【研修目的・概要】 シーケンサ技術の修得と専門力向上の為の講習を受け専門力の向上を図る。 【講師】 三菱電機株式会社 機器事業部 【対象科目】 ものづくり基礎実習Ⅰ・Ⅱ（シーケンス実習）
教員	精密工学会中国四国支部講習会 「切削理論の基礎・切削特性値の測定とその解釈」	精密工学会中国四国支部	平成29年9月26日	【研修目的・概要】 切削理論の基礎から切削特性に及ぶ応用まで専門性の向上を図る。 【講師】 広島大学 田中隆太郎・關谷克彦 【対象科目】 機械加工学・ものづくり基礎実習

## ②指導力の修得・向上のための研修等

対象	研修名称	主催	研修期間	研修内容
教員	就活におけるSPIの位置づけと指導方法について	広島工業大学 専門学校	平成29年4月20日	【研修目的・概要】 近年の就職活動において、必須となっているSPI試験の位置づけ及びその指導方法について指導力の向上を図るため、研修を実施した。 【講師】 人材開発マネジメント(株) 三木 知之 【対象科目】 生き方講座、学生指導
教員	キャリアカウンセリングに関する研修	広島工業大学 専門学校	平成29年6月15日	【研修目的・概要】 キャリアカウンセリングの観点から、今どきの就活と若者を知る講演を受け指導力の向上を図った。 【講師】 特定非営利活動法人キャリアプロジェクト広島 副代表理事 竹本 寛美 【対象科目】 生き方講座、学生指導
部長 学科長	コミュニケーションが苦手な学生への支援～合理的配慮が学校を変える	広島県専修学校 各種学校 管理職・教員 研修	平成30年2月23日	【研修目的・概要】 コミュニケーションが苦手な学生が増える中、どのような配慮が必要であるか。また、話す力、聞く力とはどういう事か。研修を受け指導力向上を図る。 【講師】 竹内発達支援Co.代表 竹内 吉和 氏 【対象科目】 生き方講座、学生指導
教員	情報セキュリティ研修	広島工業大学 専門学校	平成30年2月22日	【研修目的・概要】 教職員を対象に学園の情報セキュリティポリシーについて学び、組織体制づくりについて指導を受けた。 【講師】 株式会社ネットスクエア 代表取締役 村上 賢二 【対象科目】 全科目

## (3) 研修等の計画

### ①専攻分野における実務に関する研修等

対象	研修名称	主催	研修時期	研修目的・概要
教員	画像認識ワークショップ	株式会社アフレル	平成30年6月	【研修目的・概要】 カメラで見た画像をソフトウェアで制御し、ロボットを動かすまでを体験する。これから必要とされる「IoT」関連の授業で、画像認識、制御の学習の可能性を検討する。 【講師】 株式会社アフレル 【対象科目】 ものづくり基礎実習・ものづくり応用実習
教員	広島県高精度切削加工研究会	広島県立総合 技術研究所	平成30年	【研修目的・概要】 機械加工に関する技術習得・情報収集を行い専門力向上を図る。 【対象科目】 機械加工学・ものづくり基礎実習

## ②指導力の修得・向上のための研修等

対象	研修名称	主催	研修時期	研修目的・概要
教員	コミュニケーションが苦手な学生への支援～合理的配慮が学校を変える(仮)	広島工業大学 専門学校	平成30年10月	【研修目的・概要】 近年、コミュニケーションが苦手な学生が増える中、どのような配慮が必要であるか。また、話す力、聞く力とはどういう事なのか。研修を受け学生対応の指導力向上を図る。 【講師】 竹内発達支援Co.代表 竹内 吉和 氏 【対象科目】 生き方講座、学生指導

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業・業界団体・学校関係者・卒業生等の委員で構成される学校関係者評価委員会を構成し、自己評価報告書を基に教育目標に沿った人材育成や学校運営等の教育活動を評価することで、各課程及び学科における教育への取り組みの改善等を促進し、教育の質の保証・向上並びに教員の資質・指導力向上等を図る。

当該委員会では以下の事項について評価・助言を求める。

- ①自己評価の内容
- ②自己評価の結果に基づく今後の改善方向
- ③学校運営に向けた取り組み
- ④重点的教育の取り組み内容

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果並びに改善事項は、教職員全員で共有するとともに、各課程及び学科における具体的対応の検討結果を教育課程編成委員会に反映させることで、次年度の教育課程のその他学校運営の改善に活用し、技術者育成のための実践的な職業教育の充実と、教育の質の保証・向上及び教員の資質・指導力向上等を図る。

学校関係者評価の意見等	活用状況
各学科において企業連携授業等を通じて先進的教育への取組が行われている。PBLは実務的な側面からも効果があると期待される。	機械工学科では、企業連携科目においてPBLを取り入れた教育を行っている。問題・課題解決のサポートに企業が参加し、成果発表まで適宜報告会を開催しディスカッションしている。平成30年度より科目名を変更し、より充実した科目となるよう取り組みを進める。
各学科において企業連携授業やインターンシップの取組は、実践力の観点からも継続実施することが期待される。また即戦力からかけ離れたものにならないような教育が望まれる。	機械工学科では、インターンシップに力を入れており、1年生の夏に実施している。本年度も学生全員が参加できるよう指導を行い対応している。また、企業実習の内容も実践的なものとなるように企業と連携し現場で作業が出来るよう取り組んでいる。
教育環境は、校舎、施設設備等の充実が図られている。ICT教育への取組も評価できる。継続的な環境整備が望まれる	平成30年度に無線LAN環境の整備、電子黒板の導入を図り、ICTを活用したアクティブラーニング教育に向けた取組を行う。既に先行投入した機材により模擬授業の展開を図っている。今後は、ICTに係る研修会を開催しICT教育への取組を強化する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

学校関係者委員

平成30年3月31日現在

名 前	役職・所属	職責等
玉 野 和 保	校長	学校関係者評価委員会委員長
鶴 登美子	副校長兼キャリアサポートセンター長	委員
吉 本 恒 雄	教育部長	委員

企業関係者委員

平成30年3月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
国 貞 和 彦	学校法人広陵学園 広陵高等学校	平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年）	高校
高 羽 威	一般社団法人 広島県情報産業協会	平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年）	業界団体
木 谷 幸 江	公益財団法人 日本照明家協会	平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年）	業界団体
山 本 博	テンパール工業株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年）	企業
宮 内 秀 実	河井建設工業株式会社	平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年）	企業 地域
大 島 晋 也	広島工業大学専門学校同窓会	平成29年4月1日～平成31年3月31日（2年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 毎年7月末

URL: <http://www.hitp.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動及び学校運営の状況とそれらの自己評価報告書を、学校関係者評価委員会並びに教育課程編成委員会の企業・関係業界・学術機関の委員に配布・公開し意見を求めることで、理解と助言を求め、もって教育の質保証・向上を図ることを基本方針としている。併せて、関係事項をホームページだけでなく、学生募集関係文書、採用案内関係文書等で広く公開し、積極的な情報提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

職業実践専門課程に関する情報は、各種メディアを通じて提供しています。

URL: <a href="http://www.hitp.ac.jp/">http://www.hitp.ac.jp/</a>	随時更新(職業実践専門課程認定に伴う更新 7月、12月)
学習プレゼン大会(学校行事)の開催	2月(職業実践連携企業、内定先企業、高等学校、保護者、新入学生等に広く案内)
学校案内パンフレット	4月以降配布(入学希望者向け)
就職案内パンフレット	3月以降送付(求人企業向け)

## 授業科目等の概要

(工業専門課程機械工学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生き方講座Ⅰ	業界の理解とキャリア意識の向上・自己理解し、自己肯定意識の向上	1後	32	1			○	○		○		
○			生き方講座Ⅱ	就職基礎能力の養成・「主体的行動力」「考える力」の育成・社会人基礎力を養成	1後	32	1			○	○		○		
○			生き方講座Ⅲ	一般常識、SPIテストの実施・講演、講話を通して社会人意識の向上・ボランティア活動を通して社会貢献の意味の理解	2前	32	1			○	○		○		
○			生き方講座Ⅳ	社会人基礎能力の養成・社会人の「規律性」や「ストレスコントロール力」の育成	2後	32	1			○	○		○		
○			文章技術	明快で論理的な「レポート」「実習報告書」等の作成能力を育成すると共に、論理的な思考を養う。	1前	32	2	○			○			○	
○			情報処理リテラシーⅠ	コンピュータを使用する上で必要な知識を修得する。Wordを中心に入力速度の向上を図る	1前	32	1			○	○			○	
○			情報処理リテラシーⅡ	コンピュータの基礎知識と操作法習得・簡単なExcelを使ったデータ処理・PowerPointを使った発表資料作成を行う。	1後	32	1			○	○			○	
○			情報技術基礎Ⅰ	基礎的な情報処理について修得・コンピュータの基礎、流れ図・2進数、論理演算、ブール代数	2前	32	2	○			○			○	
○			情報技術基礎Ⅱ	基礎的な情報処理について修得・カルノー図の学習・ディンジョンテーブル、KJ法などの意志決定手法の学習	2後	32	2	○			○			○	
○			ものづくり概論Ⅰ	加工機械操作のための知識習得・測定・検査について学習・マイクロメータ、ノギスの使用法の学習	1前	32	2	○			○			○	
○			ものづくり概論Ⅱ	製造で行われる加工法の習得・鋳造の用語と鋳造法について学習・各種工作機械の特徴と加工対象の学習	1後	32	2	○			○			○	
○			機械材料Ⅰ	機械構造物で使われる材料について学習・金属材料の種類、組織、性質の理解・熱処理などについて理解	1前	32	2	○			○			○	





○	品質管理	品質管理の手法の習得・品質管理の歴史と位置づけ・データ処理手法について学習・管理図の見方の学習	2後	32	2	○			○									
○	機械保全	機械保全や信頼性の重要性の習得・劣化対策、保全活動方法を学習・故障解析、工具の種類などの学習	2前	32	2	○			○									
○	生産管理	「もの作り」に必要な知識技術の習得・モノの流れと意思決定、効率化の学習・在庫管理、生産計画などの手法の学習	2前	32	2	○			○									
○	流体力学	流体力学と流体機械の基礎の理解・流体の物理的特性・ポンプの種類と仕組みの学習	2後	32	2	○			○									
○	原価計算	もの作りにおいてモノの流れを習得・原価の概念や各種用語の理解・材料、労務、経費などの計算・各種原価計算演習	2後	32	2	○			○									
○	CAD/CAM概論	3D-CADの現状とCAMの種類と機能の習得・3D-CADの種類と特徴・3D-CAMと2.5D-CAMの現状と違い	2前	32	2	○			○									
○	人間工学	工業製品の人間的要素の重要性の習得・ヒューマンエラーについて・工業製品において人間要因について	2後	32	2	○			○									
○	NC工作概論	NC旋盤を中心としたC工作法の習得・工作法および制御方法について学習・Gコードを使ったプログラム作成	2後	32	2	○			○									
○	FAシステム工学	自動化に必要な管理手法の習得。・生産システムの種類と特徴について学習・在庫管理や需要予測等の学習・大規模生産システムの管理について学習	2後	32	2	○			○									
○	工業デザイン工学	設計で要求されるデザイン知識の習得・工業デザインの意味・色彩、形状の基本的知識・使い易さの追求	2後	32	2	○			○									
○	図学と基礎製図Ⅰ	JIS機械製図の読図と製図法の学習・JIS規格と機械製図について・第三角法、断面図、立体図の描き方・簡単な図面のトレース実習	1前	64	3	△			○	○								○
○	図学と基礎製図Ⅱ	JIS機械製図の読図と製図法の学習・公差、表面粗さの記入法・ネジ、軸、軸受、歯車など機械要素の製図	1後	64	3	△			○	○								○
○	製図とCAD基礎Ⅰ	製図ルールおよびCAD操作（簡単な図面トレース）の習得・製図記号の名称および意味の理解・CAD操作の習得および製図法の理解	1前	64	3	△			○	○								○
○	製図とCAD基礎Ⅱ	図面トレースおよび組立図作成実習・作業速度および正確性の向上・加工に即した見やすい図面作成の学習	1後	64	2				○	○								○
○	CAD応用Ⅰ	複雑な図面を早く・正確に作成する技術修得・3面図から等角図の作成・部品からの組立図の作成	2前	64	2				○	○								○

○		CAD応用Ⅱ	複雑な図面を早く・正確に作成する技術修得・部品からの組立図の作成	2後	64	2			○	○	○		
○		機械工学基礎実験Ⅰ	電気基礎実験および手ヤスリ作業実習・交流・直流の扱い、配電設計など・ヤスリ作業、すり合わせ作業	1前	64	3	△		○	○	○		
○		機械工学基礎実験Ⅱ	内燃機関の構造および金属材料実験・分解組立、測定、調整実習・引張り、硬さ、曲げ試験および金属塑性観察	1後	64	3	△		○	○	○	△	
○		機械工学基礎実験Ⅲ	水力実験およびP I Cの使用法の修得・ベンチュリー、ピトー管などの実験をとおして流体の性質を理解・P I CでL E D制御を行いプログラムの理解	2前	64	3	△		○	○	○		
○		ものづくり基礎実習Ⅰ	旋盤、溶接、シーケンス処理の習得・旋盤基礎操作および加工方法の学習・アーク溶接、ガス溶接法の学習・制御知識およびリレーラダーの基礎学習	1前	64	2			○	○	○	△	
○		ものづくり基礎実習Ⅱ	旋盤、溶接、シーケンス処理の習得・ネジ、突っ切り加工などの学習・アーク溶接、ガス溶接法の学習・信号機などのリレーラダー作成	1後	64	2			○	○	○	△	
○		ものづくり応用実習	応用実習としてN Cマシン又はP L Cを選択して学習をする	2前	64	2			○	○	○	△	
○		ものづくり専攻実習	専攻実習として3D-CAD又はM Cを選択して学習する	2後	96	3			○	○	○		
○		自主デザインⅠ	修得した加工の知識・技能の応用実習・各グループで製作物を設計から加工までの一連の流れの体験学習	2前	96	3			○	○	△	○	○
○		自主デザインⅡ	修得した加工の知識・技能の応用実習・各グループで製作物を設計から加工までの一連の流れの体験学習	2後	96	3			○	○	△	○	○
	○	インターンシップ	企業での就業体験・製造業での仕事体験・仕事の雰囲気、仕事の意味などを理解	1後	64	2			○	○	○	○	○
合計				53科目				2,304単位時間(109単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。